

主食用稲「ヒノヒカリ、アケボノ」の 発酵粗飼料(WCS)用としての利用



窒素4kg/10aの実肥により
粗タンパク質含有率が向上
左：実肥無、右：実肥有



疎植栽培のWCS用アケボノの収穫
WCS収量 実肥有 9.2ロール/10a
実肥無 8.7ロール/10a

開発のねらい

牛のえさとなる発酵粗飼料(WCS)用の水稻栽培が推進されていますが、県南部地域では飼料専用品種の作付けが難しい場合があります。そこで、広く栽培されている主食用品種をWCSに活用するため、WCS用としての収量や品質を検討しました。

新技術の概要

- ヒノヒカリ、アケボノは、WCSとしての収量や含まれる飼料成分は、専用品種のクサノホシ、たちすずか、ホシアオバと同等です。
- WCSとしての収穫適期は、ヒノヒカリが9月末、アケボノが10月中旬です。
- 実肥を施用することで、黄熟期の葉色が濃くなり、粗飼料成分として重要な粗タンパク質含有率が向上します。

活用場面

飼料専用品種が栽培しにくい地域でも、これまで栽培してきたヒノヒカリやアケボノがWCSとして利用できることで、耕畜連携による国産粗飼料の安定供給や水田の有効利用に役立ちます。